

男女共同参画

性別に関わらず
個性と能力を発揮できる社会へ



第2次奥州市
男女共同参画計画

私たちを取り巻く社会環境はコロナ禍の中で急速に変化しています。こうした変化に対応し、活力ある社会をつくっていくためには、「男女が互いに尊重しつつ責任を分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を発揮することのできる社会」＝「男女共同参画社会」の実現が重要です。そのため、市では第2次奥州市男女共同参画計画を平成30年に策定し、男女共同参画の啓発活動を中心に、市民公益活動団体のノウハウや専門性を生かした協働事業の実施や、講演会などを行っています。「男女共同参画」という言葉が使われなくなり、当たり前になることがゴールです。そんなゴールを目指し行っている啓発活動の一部をご紹介します。

■問い合わせ＝本庁地域づくり推進課市民活動係（江刺総合支所・☎34-1618、✉chiikidukuri@city.oshu.iwate.jp）

講演会の開催

今年は「わが町バンザイ～岩手を歩いて～」と題して、IBC岩手放送の菊池幸見アナウンサーを講師に迎え、ラジオやテレビのリスナーからのお手紙を交えながら、「男女共同参画社会とは？」について、お話いただきました。



菊池幸見アナウンサーの訃りを交えたユーモアあふれるお話に、会場は終始、笑いに包まれました

男女共同参画川柳の募集

男女共同参画川柳を募集しています（3月31日まで）。詳しくはホームページまたは地域づくり推進課までお問い合わせください。

男女共同参画
川柳募集▶



【前回の入賞作品】

最優秀賞

「助け合う 心がつくる 思いやり」 成田 敏夫（水沢）

優秀賞

「定年後 二人で楽しむ 家事仕事」 熊谷 富美夫（江刺）
「助け合い 我が家も立派な ONE TEAM」 今野 咲織（水沢）

市民公益活動団体との協働事業

ダブルケアと男女共同参画

「若者が考えるダブルケア・パパたちが語る男女共同参画」

主催団体
岩手奥州ダブルケアの会

【第一部】

ダブルケアに関する卒業研究発表（岩手県立大学）

【第二部】

パパたちによる『僕は手伝わない』クロストーク

ファシリテーター：ファザーリングジャパン東北理事
後藤大平さん

これから結婚を考えている人にもおススメ。女性の不満も、男性の生きづらさも全部ひっくるめて、令和パパたちがそっと風穴を開けてくれます。

●開催日 2月28日（日）午後1時半～4時

●場所 水沢地区センター視聴覚室

●定員 会場定員15人

オンライン参加可能（定員なし）
（WEB会議システム Zoom利用）

●申込先 岩手奥州ダブルケアの会代表 八幡
（✉wcare.oshu@gmail.com）



講演会

「LGBTQ+の
若者が伝えたい3つのこと
～誰もが自分らしく生きるために～」

主催団体
男女共同参画
“おうしゅう”

●開催日 2月20日（日）午後1時45分～3時45分

●場所 市文化会館（Zホール）中ホール

●申込先 男女共同参画“おうしゅう”
会長 佐藤（☎35-2263）
または、地域づくり推進課まで

どちらの事業も参加料は無料です。どなたでも参加できますが、事前の申し込みが必要です。各申込先へ申し込みください。
LGBTQ+のこと、ダブルケアのこと、ワークライフバランスのことを考えるきっかけになるはずです。お気軽にご参加ください。

今年は丑年です

皆さんは「牛」と聞いて何を連想しますか――。

現代においては食料としての側面が強い牛ですが、昔は農作業や物を運ぶ労働力として、人間の生活に寄り添う動物でした。牛は勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起の良い動物とされています。また、牛の産地として全国的に有名な奥州市。丑年を迎え、私たちと牛が歩んできた道のりを紹介します。



牛に犁を引かせ、農作業をする様子（昭和30年頃 旧胆沢郡小山村）

人間と牛との関わり
日本人と牛の関係は、古代までさかのぼります。日本に牛が伝えられたのは5、6世紀といわれ、朝鮮半島からの渡来人が牛を持ち込みました。これを裏付けるかのように、古墳時代の各地の遺跡からは、牛の埴輪が発見されています。奥州市域でも、昭和初期以降、主に農作業や荷物の運搬などの労役に用いられる家畜として、共に生活を送りました。昭和30年代ごろには、家で1、2頭の牛を飼育している家庭も多く、私たちの生活を豊かにしてくれました。食の面から私たちは牛に支えられています。農業機械の普及とともに役用牛はその



乳用牛と記念撮影（昭和30年代 旧前沢町赤石）



荷車を引く牛と家族（昭和25年 旧前沢町御簾森）

役割を終えますが、代わりに人々が畜舎で飼いはじめたのが肉用牛でした。現在、市内には「前沢牛」「いわて奥州牛」「江刺牛」の3種類の銘柄があり、食肉加工産業も盛んです。真心込めて育てられた牛肉は、どの銘柄も全国的に高い評価を得ています。

市内には、全国唯一の牛の博物館があります。「牛と人間との共存を探り、生命・自然・人間を知る」をテーマに国内外に情報を発信しています。丑年を迎えるに当たり、牛の博物館では、「第28回企画展 牛の美」を開催しています。收藏コレクションの中からよりすぐりの牛の絵画と手工芸品を紹介。牛の造形や時代ごとの描き方を楽しめる企画展となっています。長年共に歩んできた私たちと牛。これまでの軌跡をたどることができる牛の博物館へぜひご来館ください。

第28回企画展 牛の美
1月31日まで



～企画展示品の中から～

会津張子 赤ベコ

福島県会津若松市の牛の姿をした郷土玩具。子どもの疫病よけの縁起物として人々に親しまれてきました。赤は魔よけの色、黒い水黒模様は、やはり病の天然痘が治る様子を表現しています。

牛の博物館

住所 前沢字南陣場 103-1

電話 56-7666

休館 月曜日

開館時間 午前9時半～午後5時
（入館は午後4時半まで）

牛の博物館▶

